



一般社団法人日本物流団体連合会  
Japan Association for Logistics and Transport

## News Release

〒100-0013  
東京都千代田区霞が関 3 丁目 3 番 3 号  
全日通霞が関ビル 5 階  
TEL: 03-3593-0139  
FAX: 03-3593-0138  
URL: [www.butsuryu.or.jp](http://www.butsuryu.or.jp)

令和 7 年 7 月 1 日

### 流通経済大学の「SCMプロフェッショナル人材教育プログラム」が 文部科学省の「リカレント教育エコシステム構築支援事業」として 採択されました

流通経済大学において本年 8 月以降開講となる「SCM プロフェッショナル人材教育プログラム」が、文部科学省の「リカレント教育エコシステム構築支援事業―リカレント教育による新時代の産学協働体制構築事業」の一つとして採択され、この度、受講者（社会人）の募集が開始されました。

高度物流人材育成は、政府の重要な政策目標として掲げられており、来年度からは、特定事業者に対する、物流統括管理者の選任の義務化も開始されます。今回開講されるプログラムは、政府の支援も得ながら、座学と実習を組み合わせ、サプライチェーン全体を俯瞰できるプロフェッショナルな人材の育成を目指すものであり、一般社団法人日本物流団体連合会(略称：物流連)としても、継続して連携協力していくこととしております。

別添資料をご参照の上、物流連会員の皆様、あるいは関心をお持ちの関連荷主企業の皆様とも情報共有していただき、是非、積極的に受講を検討いただけますようお願い申し上げます。

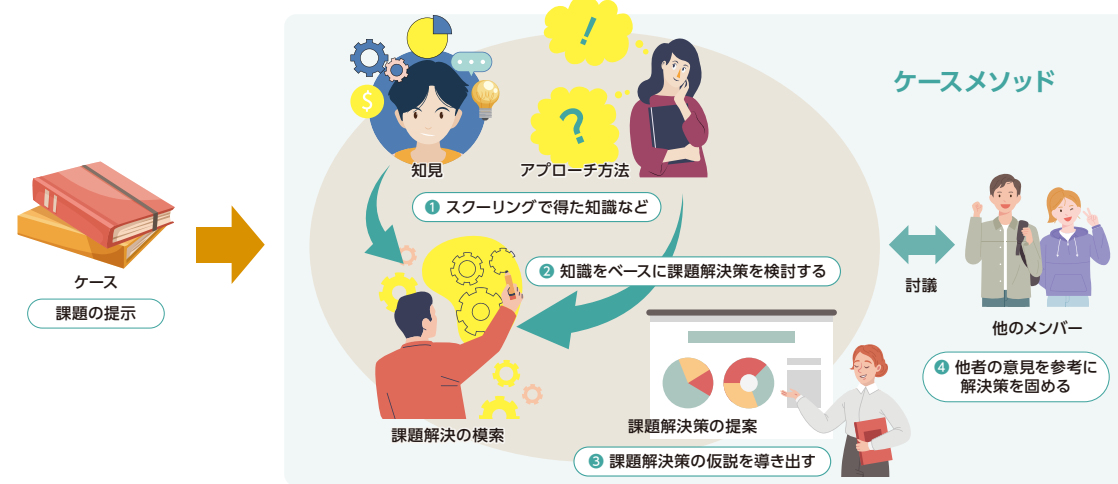
(お問い合わせ、受講応募はリーフレットに記載の連絡先「流通経済大学リカレント教育センター事務室」に直接お願いします。)

以 上  
担当：山本

## 特徴的なプログラム

### ケースメソッドとは

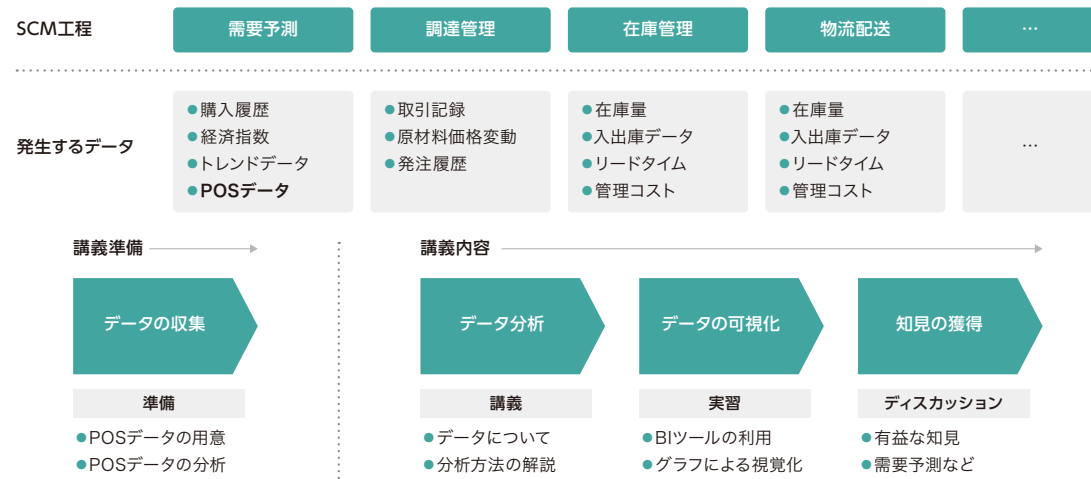
実際の出来事が書かれた「ケース」を討議する形式で行う。  
ケースにより導き出せる課題に対応した設問に対して、個人もしくはグループが当事者としてどの課題解決策を意思決定し、ほかの受講者と討議の上で最終的な意思決定の方向性を模索する。本講座で得た知見やアプローチ方法などを駆使して課題解決の方向性を導き出すことを訓練する。



ケースメソッドには決まった答え（解決策）はなく、ここで導き出した解決策をベースに討議などを実施。

### データサイエンスプログラムとは

SCMを効率的に最適化するには、より正確な**需要の予測**、安定かつ低コストな**調達先の確保**、適切な**在庫管理**、効率的な**輸配送**などの複合的な改善が重要であり、そのためには各工程で生ずるデータを集約し、データ分析をおこない有益な知見を得る必要がある。集約されたデータから有益な知見や情報を得るための手法として**データサイエンス**があり、1.データの収集と整形、2.統計解析やAIによるデータ分析、3.特徴の可視化、4.有益な知見の獲得の手順で行われる。この講義ではSCMの**需要予測**に焦点を当て、**POSデータ**を使い、データ分析（講義形式）、特徴の可視化（実習形式）、そして知見の獲得（ディスカッション形式）を行う。この講義を通してDXを進めるうえでの、データの重要性・有用性を再確認する。



## 2026年以降の受講対象者層に対応した複数プログラムの構築

2025年度から実施するSCMプロフェッショナル人材育成プログラムのほかに、2026年度以降、「SCM基礎講座」や「SCM基礎講座オンデマンド」等のプログラムを計画予定。

## 定員・受講料・開催形式

定 員：約20名  
受 講 料：600,000円/1名(税込)  
開催形式：対面が基本（東京都心部の会議室を予定）、一部オンラインで受講可能、外部見学会

連絡先

流通経済大学

リカレント教育センター 事務局

電話：047-709-1896 メール：recurrent@rku.ac.jp

文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」採択

社会人を対象としたリカレント教育

# 「SCMプロフェッショナル人材教育プログラム」

## 開講のご案内

SCM（サプライチェーンマネジメント）について、  
調達、生産、販売、さらにロジスティクス全体を体系的に学習することにより、  
SC（サプライチェーン）全体を俯瞰できるプロフェッショナル人材を育成。

座学と企業事例、企業見学、ケースメソッド、  
SCM関連データを用いたデータサイエンスプログラムなど、  
実習を組み合わせた実践的なプログラム

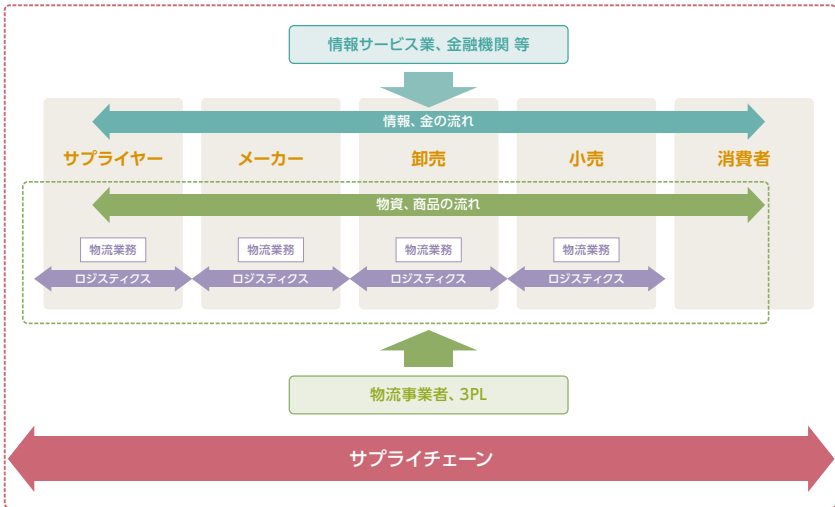


流通経済大学

## 本プログラムが目指す「SCMプロフェッショナル人材」

本プログラムでは、自社範囲の物資、商品の管理だけでなく、自社に関係する製配販の垂直の流れ、さらには同業他社との連携など広範囲に展開するサプライチェーン全体を俯瞰、管理するために必要な知識と考え方を持つ「SCMプロフェッショナル人材」を育成。

本学関係者による論理の側面と企業関係者による実務の側面をベースにしたスクーリング。スクーリングで得た知見を踏まえて、SCに関するマネジメントを今後行うための訓練も含んだ教育で構成。



## プログラムの全体構成 ～座学と実習・実践を組み合わせたプログラム～

SCMに関する知見、関連するロジスティクスの基礎・データサイエンスの基礎など知識の向上だけでなく、サプライチェーン全体を俯瞰してマネジメントできる人材を育成。

全体を「第1期・第2期・第3期」とし、「**基幹講義**」「**選択講義**」「**実践研修**」で構成。

第1期・第2期では、SCMを論理的に学習すると同時に、標準化・共通化などを実現するうえで必要となる考え方や手法の学習を実施。  
● SCMとは・DCMとは／標準化・共通化とは／俯瞰・ラテラルシンキング・ベネフィット 等

**基幹講義**では、データサイエンスを基礎から学び、SCM運営に数値利用する学習を実施。

**選択講義**は不足している知識に関して網羅的な見地からの学習を実施（広く物流・ロジスティクス・考え方・情報整理を学習）。

第2期・第3期では、**ケースメソッド**や企業事例、実際の物流現場の見学会等による学習を実施。

- **ケースメソッド**（実際の企業事例について本講座にて学習した内容をベースとしてロジスティクス・マネジメントの演習を実施）。
- 実務家による企業事例報告（実務研修）
- ゲーム理論の体現による判断力の向上を図る学習も併せて実施。
- 実際の現場を見学する現場見学会を実施。見学会は2か所の訪問を予定。

## プログラム実施日程（案）15日間（45コマ、1コマ90分）基本は対面

**A 第1期** 8月下旬～9月上旬・5日間 **B 第2期** 10月中旬～下旬・5日間 **C 第3期** 11月中旬～下旬・5日間

## 日本を代表する物流・流通系業界団体、研究機関と連携

## 講師：本学を中心とした研究者及び実務家

## 対象受講生：

メーカー、卸売、小売、物流事業者、3PLなど物流関連業種を中心に、情報サービス、金融系等広範な業種のSCM部門の管理職層

## プログラム修了者には、修了証とデジタルバッジを発行

## プログラムの構成と時間割案

| A 第1期 8月下旬～9月上旬・5日間 |      |      |       |       |
|---------------------|------|------|-------|-------|
| 1日目                 | 2日目  | 3日目  | 4日目   | 5日目   |
| 基幹 1                | 基幹 4 | 基幹 7 | 基幹 10 | 基幹 13 |
| 基幹 2                | 基幹 5 | 基幹 8 | 基幹 11 | 基幹 14 |
| 基幹 3                | 基幹 6 | 基幹 9 | 基幹 12 | 基幹 15 |

| B 第2期 10月中旬～下旬・5日間 |       |         |          |          |
|--------------------|-------|---------|----------|----------|
| 1日目                | 2日目   | 3日目     | 4日目      | 5日目      |
| 基幹 16              | 基幹 19 | 基幹 22   | 選択3 選択4  | ケースメソッドA |
| 基幹 17              | 基幹 20 | 基幹 23   | 選択5 選択6  |          |
| 基幹 18              | 基幹 21 | 選択1 選択2 | ケースメソッドA |          |

| C 第3期 11月中旬～下旬・5日間 |      |       |      |          |
|--------------------|------|-------|------|----------|
| 1日目                | 2日目  | 3日目   | 4日目  | 5日目      |
| 企業事例A              |      | 企業事例B |      | SCゲーム    |
| 選択7                | 選択8  | 選択11  | 選択12 |          |
| 選択9                | 選択10 | 選択13  | 選択14 |          |
|                    |      |       |      | ケースメソッドB |
|                    |      |       |      | ケースメソッドB |
|                    |      |       |      | 現場見学会 講評 |

注) 各講義は現時点の案であり、講義日程や内容は、講師との調整・派遣元企業の要望などにより変更する可能性があります。  
基幹授業の順番、選択授業の選択できる科目のペアは現在調整中です。

## 各講義のテーマ案

| 基幹講義 |                           |
|------|---------------------------|
| 1    | ロジスティクス概況                 |
| 2    | サプライチェーンとSCM              |
| 3    | サプライチェーン管理                |
| 4    | サプライチェーンとデカップリングポイント      |
| 5    | 需給計画                      |
| 6    | サプライチェーンと管理会計             |
| 7    | 物流ネットワーク                  |
| 8    | 輸配送管理                     |
| 9    | 在庫管理                      |
| 10   | 調達管理                      |
| 11   | 物流コスト                     |
| 12   | 販売管理                      |
| 13   | SC Game                   |
| 14   | 標準化                       |
| 15   | 物流コスト分析                   |
| 16   | リスクマネジメント                 |
| 17   | 情報標準化・可視化                 |
| 18   | 情報システム・新技術                |
| 19   | 共同化                       |
| 20   | HACCPとGMP                 |
| 21   | データサイエンスⅠ BIツールによるデータの可視化 |
| 22   | データサイエンスⅡ POSデータの特徴       |
| 23   | データサイエンスⅢ POSデータの分析       |

| 選択講義 |                     |
|------|---------------------|
| 1    | 国際物流ー1              |
| 2    | 国際物流ー2              |
| 3    | 環境                  |
| 4    | 情報技術・新技術            |
| 5    | AI                  |
| 6    | RTI／パレット            |
| 7    | ロジスティクス・プラットフォーム    |
| 8    | 自動認識                |
| 9    | トラック輸送              |
| 10   | 倉庫                  |
| 11   | 物流法規                |
| 12   | マテハン・新技術            |
| 13   | DFL（デザインフォーロジスティクス） |
| 14   | 物流商慣行               |

| 実践研修 |           |
|------|-----------|
| 1    | ケースメソッドーA |
| 2    | ケースメソッドーB |
| 3    | 企業拠点視察ー1  |
| 4    | 企業拠点視察ー2  |
| 5    | 企業事例ーA    |
| 6    | 企業事例ーB    |

注) 各講義は現時点の案であり、講義日程や内容は、講師との調整・派遣元企業の要望などにより変更する可能性があります。  
基幹授業の順番、選択授業の選択できる科目のペアは現在調整中です。

